

76 - 79 頁

「プロローグ」「1 『社会主義下の人間の魂』」「2 『美術の個人主義』」「エピローグ」の順で論じた。特に、皇室と関係の深い近衛文麿が『社会主義下の人間の魂』の翻訳に取り組んだことについて注目した。なお、近衛文麿が死に際に『獄中記』を読んでいたことはワイルドへの傾倒振りを示すものである。なお、本号は「特集：オスカー・ワイルド」である。(依頼原稿) (変型B5)